

芸術に学ぶ 観察と想像 (イメージ)

見えるものから、
まだない可能性を描く。



見る。思い描く。形にする。
つくったものを見て、また想像する。

三つの創作演習・四つの記入用シート・仕事への接続例

2026年10月3日 | A4横・全28ページ

一枚の紙から、想像を動かす

企画、資料づくり、仕事の場づくりで、いつもの案から離れてみたい方へ。

芸術とイメージの関係を知る	制作の記録と研究を読む	3
形を観察して、描き変える	演習1・記入用シート	8
配置と空白を変えてみる	演習2・記入用シート	12
まだない場面を描いてみる	演習3・記入用シート	16
自分の仕事の一枚へつなぐ	架空例・記入例・共有の仕方	19
出典と資料の位置づけを確かめる	根拠の範囲・参照先	24

前篇「芸術家の観察から仕事を見直す」はこちら

紙、鉛筆、切って動かせる紙片を用意します。描く代わりに、言葉や配置で表しても構いません。

見ているものと、思い描くものを往復する

現実の細部を見ながら、その先にあり得る形や場면을構想します。

観察する

目の前の対象に戻り、曲がり方、間隔、重なり、光などを確かめる。自分の予想と違う部分にも目を向けます。

想像する

いまは目の前にない形や配置、動き、使われる場면을思い描く。線や紙片で外に出すと、別の見方も試せます。

本書の「イメージ」は、まだない形や場面の構想を指します。頭の中の像に加え、スケッチや配置として扱います。

Project Zeroは、美術の制作で育てる思考習慣に、観察と構想を位置づけています。

参照 [1]

見た経験を、別の形と空間へつくり直す

切り紙は、形を動かしながら構成を探る制作でもありました。

制作資料から分かること

MoMAの解説では、着色した紙を切り、ピンで留める過程が紹介されています。留め直せるため、形の位置を変えて構成を試せました。

経験が作品へ変わる

《The Swimming Pool》の解説は、泳ぐ人を見に出かけた後、室内に青い切り紙の人物や生き物を配した経緯を伝えています。

本書が着目すること：見た対象の特徴を選び、形・色・配置を変えて、自分の表現をつくる。

作品や制作風景は参照先でご覧いただけます。本書の演習図は当社による別の作例です。

構想を、素材と空間の中で確かめる

形の輪郭に加えて、重さ、手触り、形と形の間にも目を向けます。

本人の著述から

ヘップワースは、制作前に構想をほぼまとめ、素材の抵抗や要求に応じつつ、その核を保つことを述べています。形の間の空間にも関心を向けました。

制作から考えること

思い描いた通りにつくろうとしても、材料や置く場所によって見え方が変わる。その違いを、次に形を選び直す手がかりにします。

本書では、手を動かした結果を観察し直し、構想に戻る練習へつなげます。

右側の説明と演習への接続は当社の解釈です。すべての芸術家に共通する制作手順ではありません。

スケッチを見ると、次の案が生まれる

描くことを、完成した考えの説明だけに限定しない。

研究が扱った範囲

Tverskyらの研究概説は、建築・デザインのスケッチを見直し、部分を組み替えたり、別のまとまりとして捉えたりする過程を扱っています。

本書で試すこと

一つ描いたら、向きや間隔を変えてもう一つ描く。描いた結果の違いから、最初には考えなかった形や意味を探します。

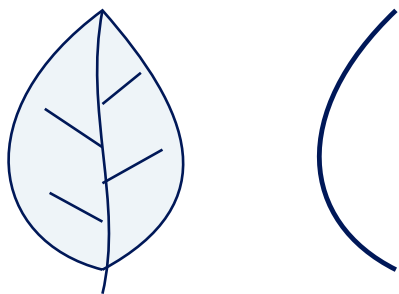
線を引く → できた関係を見る → 別の形を思い描く。この往復を、紙の上に残します。

一般企業での成果を測った研究ではありません。本書の演習一式の効果も未検証です。

形・関係・場面を、描き変えてみる

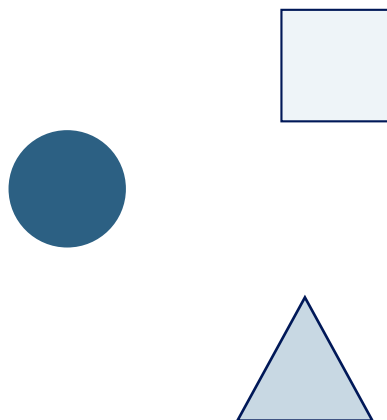
芸術の制作から着想した、当社の創作演習です。

1 形を描き変える



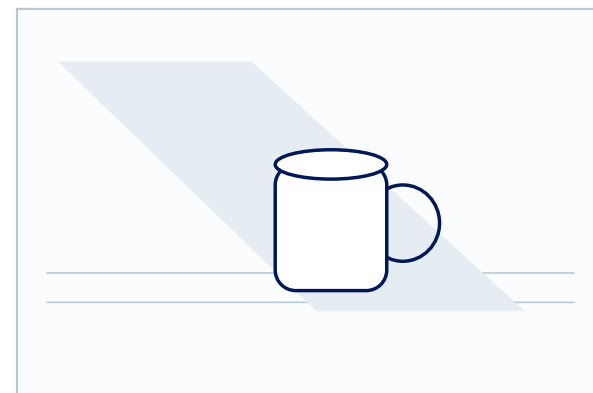
目に留まった特徴から、別の形を思い描く。

2 配置を組み替える



形と形の関係から、別のまとまりをつくる。

3 場面を描く

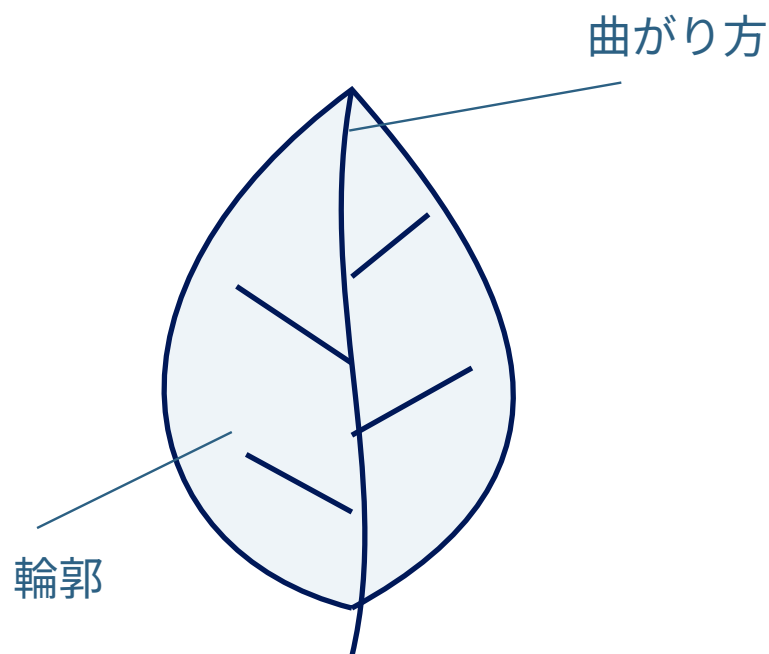


前後の時間を加えて、まだない経験を表す。

順番は固定しません。気になった演習を一つ選び、観察したものと、加えた想像を残します。

一枚の葉の、どこに目が留まるか

葉、布のしわ、椅子など、身近な対象を一つ選びます。



見る

先端、膨らみ、切れ込み。気になった一部分を、対象を見ながら線で描きます。

選ぶ

描いた線のどこを残したいか。短い言葉を添え、別の角度からもう一度見ます。

対象を正確に描く練習と、特徴から別の形を生む練習を、意識して行き来します。

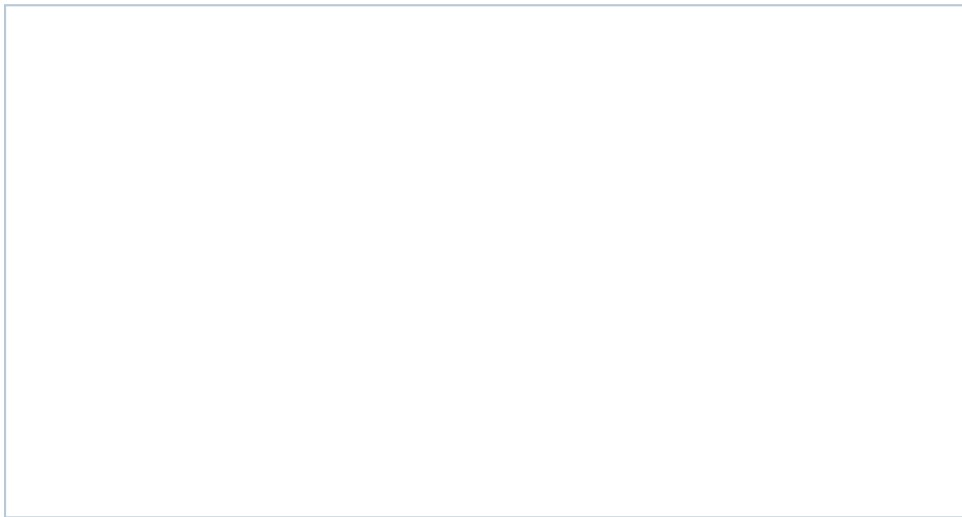
図は当社による葉の模式図。植物の種類や構造を説明する図ではありません。

観察した線と、想像した線を並べる

対象： 日時・見た位置：

対象を見ながら描いた線

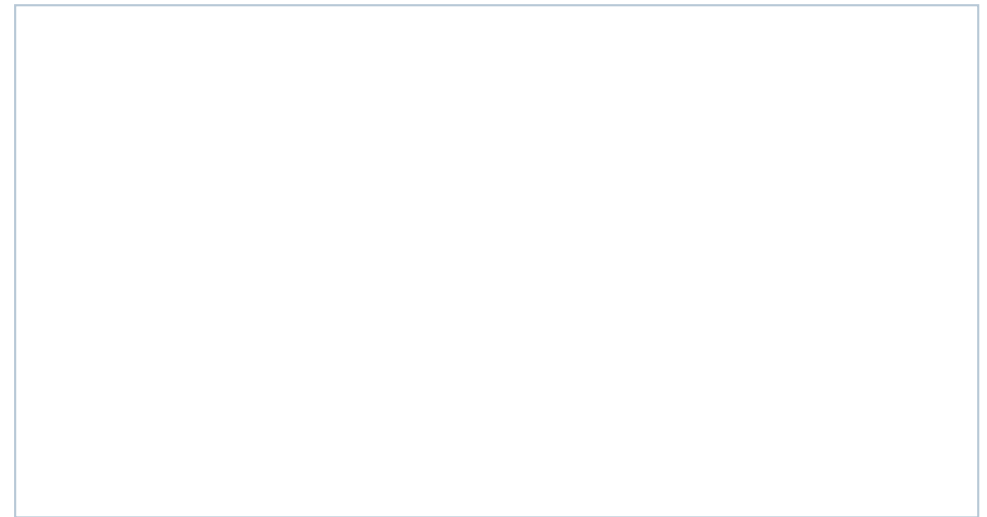
残したい特徴を一つ選ぶ。



気づいたこと：

一つ変えて、描いた線

曲がり方・向き・長さなどを変える。



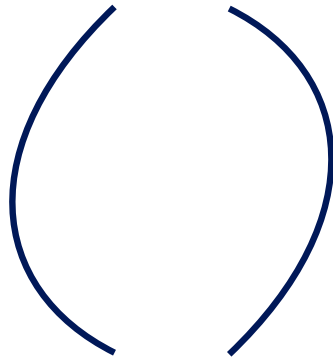
気づいたこと：

何を残し、何を変えましたか。描いた結果から、どんな別の形が思い浮かびましたか。

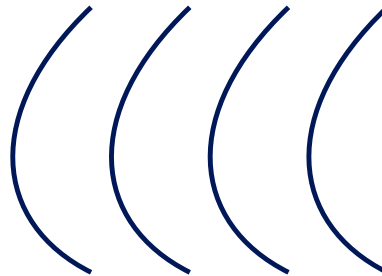
一つの線から、いくつもの形を試す

葉の曲線を手がかりに、同じ線の向きと並べ方を変えた例です。

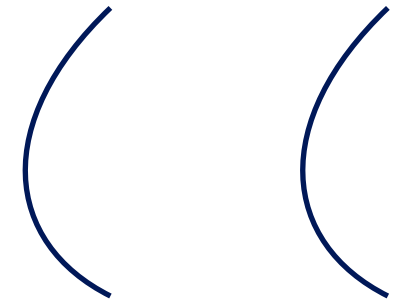
向きを変える



繰り返す



間を開ける



二つの曲線を向かい合わせる

少しずつ位置をずらして並べる

続いていた線を離して置く

「何に見えるか」に加え、「どの線の関係でそう見えるか」を確かめます。

当社の創作例です。マティス、ヘップワース等の作品の模写・再現ではありません。

見立てが浮かんだら、形へ戻ってみる

羽、流れ、道。呼び名が変わると、加えたい線も変わります。

見立てを広げる

曲線を「流れ」と見たなら、続く線や曲がり方を変える。「入口」と見たなら、間を開けてみる。浮かんだ意味を、次の形へつなげます。

観察へ戻る

どこからが対象にあった線で、どこからが自分の追加か。元の対象と並べ、気づいた特徴と想像した部分を分けて残します。

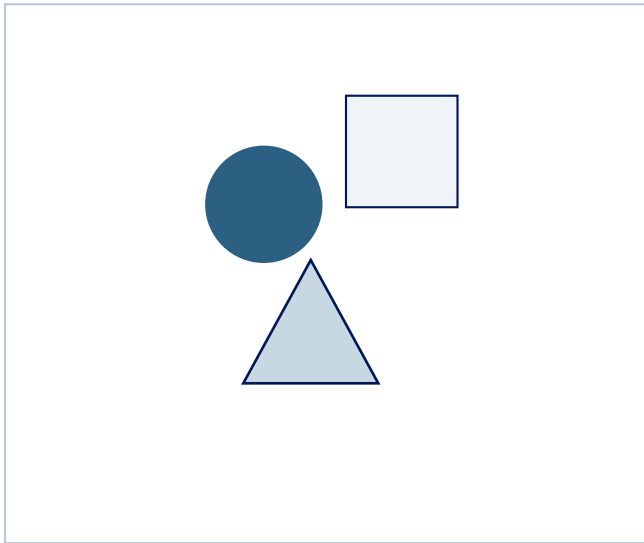
見立ては、形をつくるために仮に置くものです。対象の唯一の意味や、他人の本音とは扱いません。

イメージが浮かびにくいときは、紙を回す・重ねる・離す操作から始められます。

同じ三つの形でも、関係は変えられる

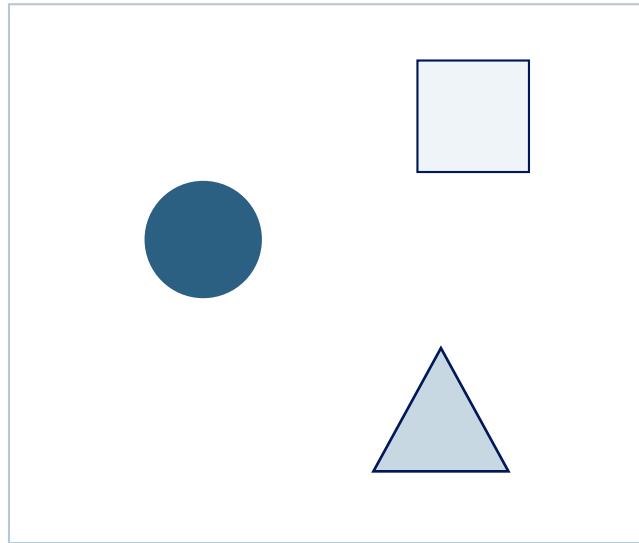
形の数と大きさを保ち、位置だけを変えて比べます。

近づける



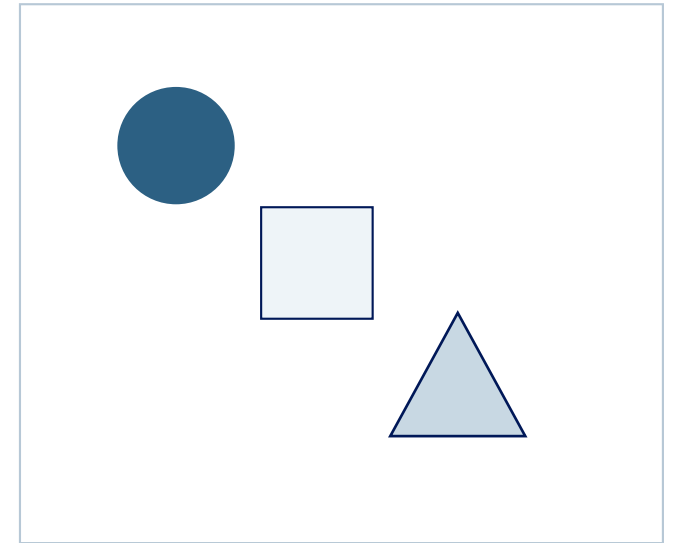
形：同じ／配置：変更

離す



形：同じ／配置：変更

斜めに並べる



形：同じ／配置：変更

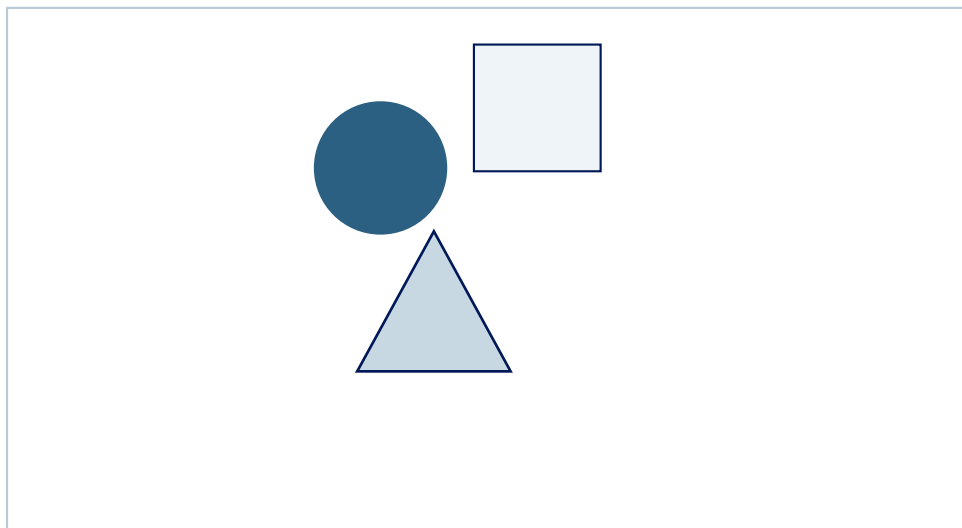
一つ選び、「どこが近づき、どこが離れたか」「自分は何を感じたか」を分けて話します。

配置による印象は人や文脈で異なります。特定の感情が必ず生じることを示す図ではありません。

置いた形と、残った空白を一緒に見る

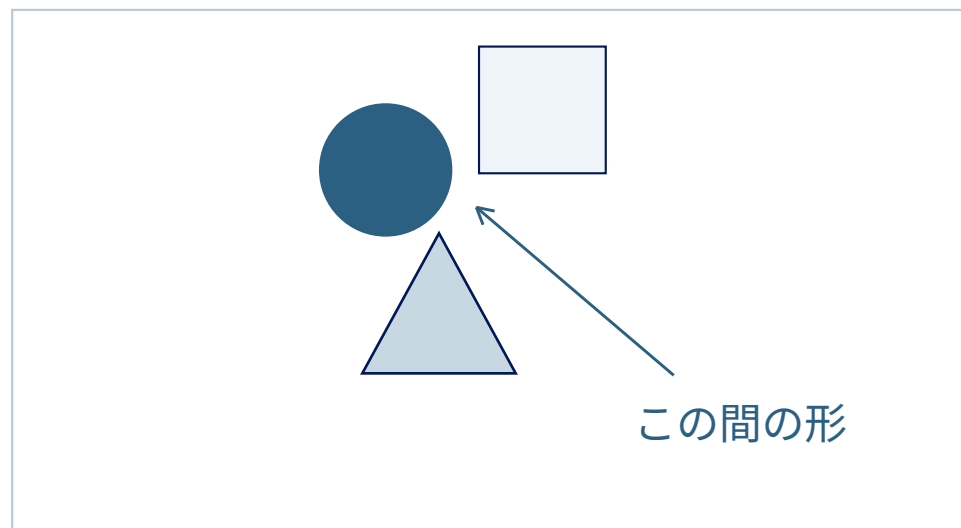
紙片の間にできた形にも、目を向けてみます。

形を見る



三つの紙片の輪郭と、互いの向きを見る。

間を見る



囲まれた空白、外へ抜ける所、狭くなった所を見る。

次に一片だけ動かすなら、どの空白を、どのような形に変えたいですか。

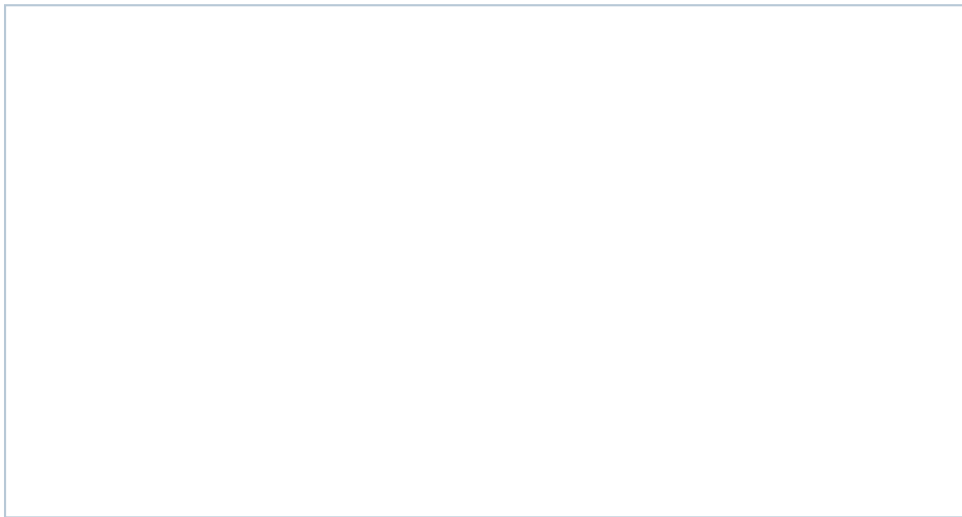
当社の創作例。矢印は、形の間にある空白へ注意を向けるための説明です。

同じ材料で、異なる配置をつくる

紙片は三つ。位置と向きを変え、二つの構成を描くか貼ってください。

配置A

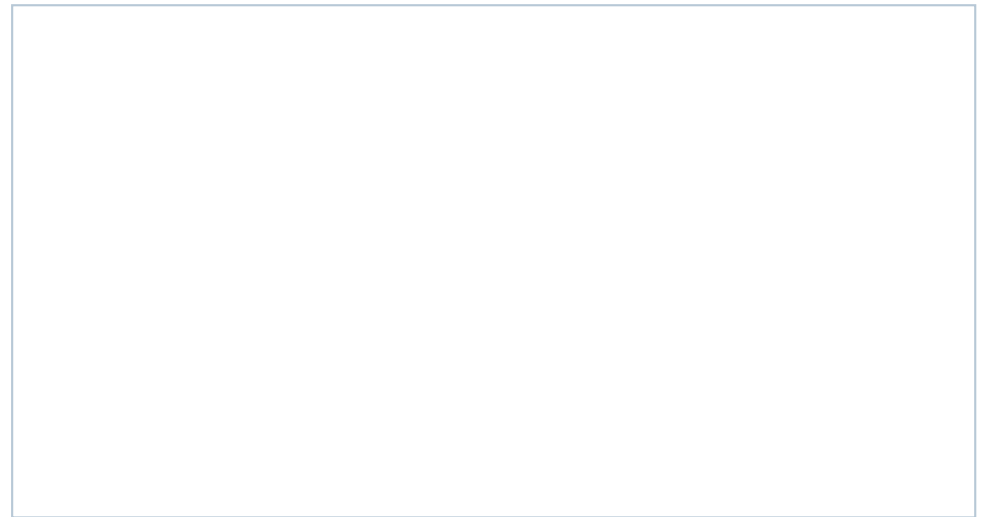
どこに目を留めてほしいですか。



気づいたこと：

配置B

間隔や向きを、どこで変えますか。



気づいたこと：

形の間になにが生まれましたか。違いを、配置の位置や空白を指しながら説明してください。

同じ情報を、別のまとまりで置いてみる

報告書をつくる前に、情報の配置を紙片で試す例です。

項目ごとに読む仮案

今回の結果
前回との違い
条件・出所
未確認の点

比較して読む仮案

今回の結果	前回との違い
条件・出所	未確認の点

想像：左右に置けば、結果と違いを行き来しやすいかもしれない。

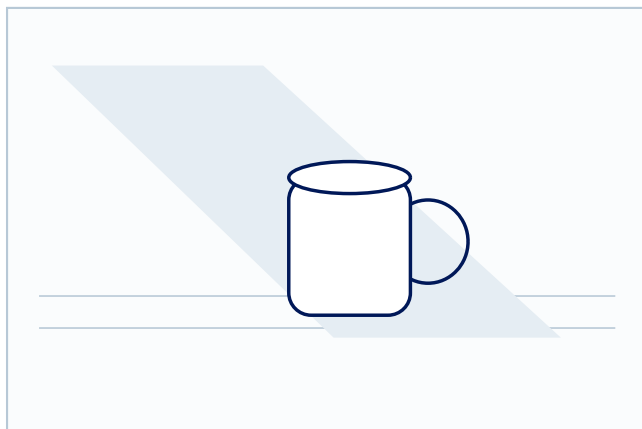
並べ方で何が見やすくなると想像したかを残し、実際に読む人と確かめます。

図は構成の仮案です。情報の省略や、評価指標の変更を推奨するものではありません。

一つのイメージを、時間のある場面へ

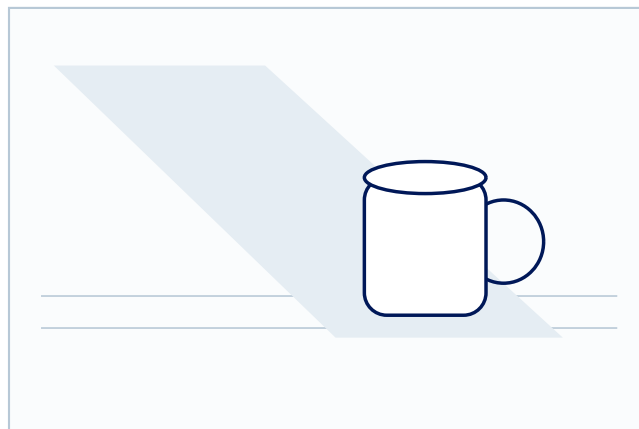
窓の光や机の上の物を観察し、その前後を三コマで思い描きます。

1 窓から光が入る



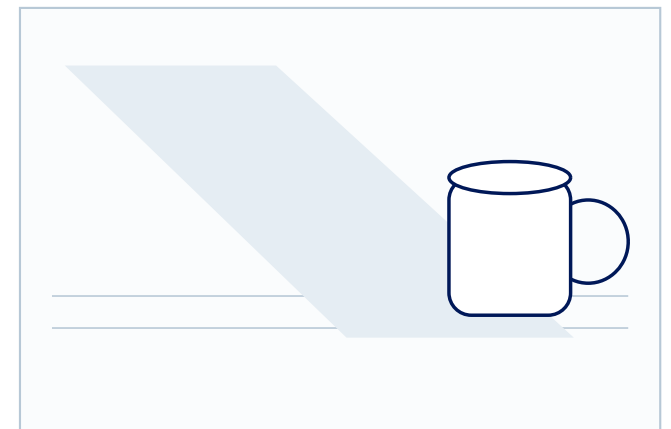
斜めの光を描く

2 カップを移してみる



光との位置関係を変える

3 光の中の姿を見る



静かな朝を思い描く

光、距離、物の位置を変えたら、どんな場面になるでしょうか。言葉を添えて構いません。

三コマは当社の創作例です。「静か」という感じ方の正解を示すものではありません。

前・いま・その後を、三コマで描く

思い描く場面・表したい感じ：

その前

加えた想像：

いま

加えた想像：

その後

加えた想像：

実際に見た手がかりに実線で印をつけ、想像した部分には「想像」と書き添えてください。

同じ場面に、別の時間を想像する

一枚の絵に描かれていない、前後の出来事も思い描いてみます。

別の前後をつくる

空の椅子がある。これから誰かが来る場面か、誰かが去った場面か。どちらかを選び、机の上や窓の光を描き足してみます。

作例として伝える

描き足した物や出来事は、自分が構想したものです。現実の写真や仕事の記録を使うときは、元の記録と創作を区別します。

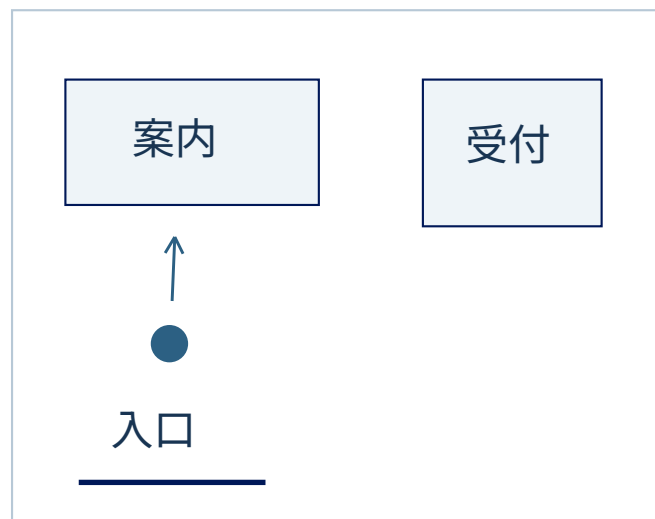
想像を広げるときは、いくつかの場面を残す。実際の出来事を説明するときには、確認できた範囲へ戻る。

同僚の沈黙や表情だけから、気持ちや事情を確定しないことも、この区別に含まれます。

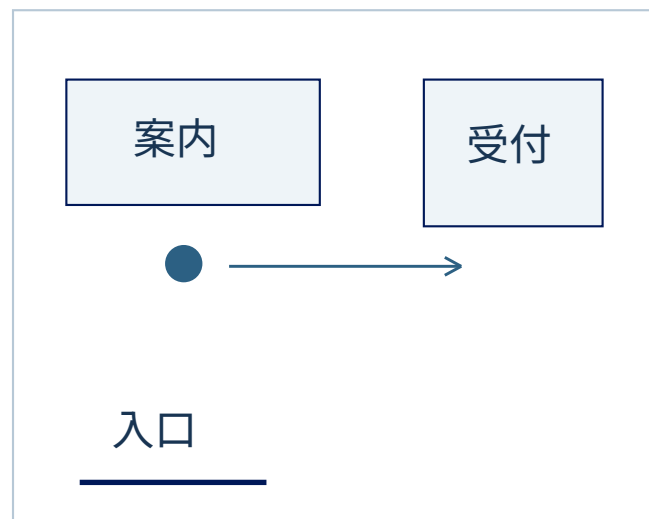
訪れる人の動きを、場面として描く

入口に着き、案内を読み、受付へ進む。その体験を仮に描いてみます。

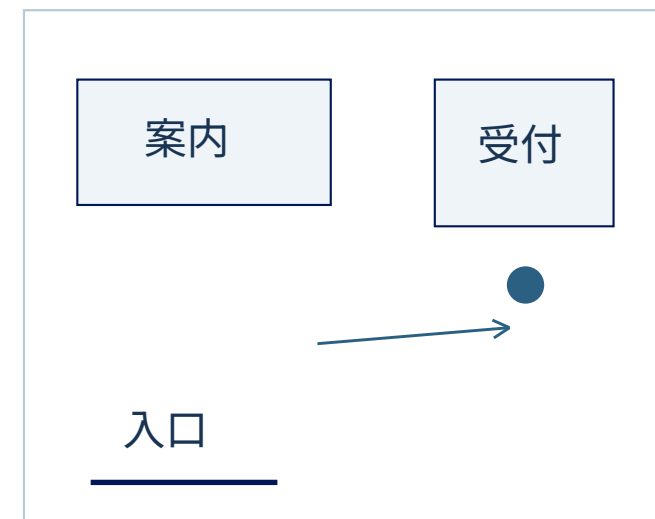
1 入口に着く



2 案内を読む



3 受付へ進む



● 来訪者 / 矢印：見る・進む方向

案内の位置と、見る・進む順番を考えるための仮案です。

想像した動線を、入口に立つ人の視点で確認します。見える高さや距離も確かめます。

模式図・会話・場面は架空です。実測された動線や、改善効果を示していません。

紙の上では気づかなかった所へ戻る

仮案を置く場所、使う人、素材が変わると、確かめる点も増えます。

見に行く

入口の案内が、扉を開けた位置から見えるか。反射で読みにくくないか。図に描いた位置に置けるか。現場で確かめます。

構想し直す

見えないなら、場所・向き・順番を描き直す。最初の案と並べ、どの観察で変更したかを残します。関係者と設置条件も確認します。

イメージ → 仮の形 → 実際の観察 → イメージの更新。完成前に、この往復をつくります。

創作の試行と、設備等の正式な変更は区別し、実際の変更は必要な確認・承認を経て行います。

何から、どんなイメージを生んだか

対象：来訪案内の紙面と置き場所 | 職場への応用を説明する架空例

観察した手がかり	入口で、来訪者が壁の案内を見た後、受付の場所を尋ねた。
思い描いた場面	入口から案内が見え、そのまま受付へ進める場面を描いた。
形にして変えた所	案内の位置を変えた二案と、入口から受付までの三コマを描いた。
見直して分かったこと	入口に立つと、一案の位置は開いた扉で隠れた。現場で置き場所を描き直した。
次に確かめること	施設担当と設置条件を確認し、初めて来る人がどこを見るかを確認する。

想像した通りに進まなかった点も、次の構想の手がかりとして残します。

自分の一枚に、つくり直した理由を残す

対象・作品・仕事：

記録日：

観察した手がかり

見た対象・箇所・条件

思い描いた形や場面

まだ存在しない可能性

形にして変えた所

線・配置・順番・素材

見直して分かったこと

紙上・現物・相手の反応

次に試すこと

変える箇所・確かめる相手

本書の空欄シートは、個人や職場で複製して使えます。共有する情報の範囲は調整してください。

相手のイメージを、先に決めない

それぞれが描いたものを並べ、気になった所を指して話します。

つくった人が話す

どこを観察し、何を思い描いたか。途中で形がどう変わったか。気に入った所と、まだ決めていない所を示します。

見る人が返す

「この間隔に目が留まりました」「私は、ここに動きを感じました」。自分の受け取り方として伝え、作者の意図も聞きます。

次に作者が試したい変更を一つ選び、描き直します。相手の案を、先に正解へまとめないようにします。

絵の巧拙や想像の鮮明さを、人の能力評価に使いません。内面の説明を無理に求めない進め方にします。

芸術から学び、自分の場面で確かめる

制作の理解、演習の提案、仕事での結果を、それぞれ確かめます。

原資料が示すもの

芸術家の制作や美術教育、デザインの思考過程です。芸術の価値には、形や経験を味わい、表現を探ること自体も含まれます。

本書が提案するもの

三つの演習と仕事への接続です。一般企業での創造性や業績の向上を実証した教材ではありません。場面ごとの使い方を試します。

美術の学習から別の領域へ力が移るかは、別に検証する課題です。作品ができたことと、仕事で役立ったことを分けます。

原資料の要約・図・演習への構成は当社によります。本書は体系的な文献レビューではありません。

参照 [1] [5] [6]

次の一枚で、何を試すかを決める

企画・資料・場づくりから、まだ形が固まっていない一件を選びます。

試す前に残す

何を見て、どんな形や場面を思い描いたか。
今の案を保存し、向き・配置・順序など、一つ変えてみます。

使った後に確かめる

受け手がどこを見て、何が分かり、どこで迷ったか。役立った点と増えた手間を聞き、次の一枚を直します。

発想した数だけで終えず、何を観察したことで、どのイメージと形が変わったかを残します。

一件の変化だけで方法の効果とは決めず、仕事の条件の違いも記録します。

芸術の制作と、美術教育を読む

本文の [番号] から、各機関の原資料へ進めます。

[1] Harvard Project Zero

Eight Habits of Mind

制作の思考習慣のうち、ObserveとEnvisionの説明を参照。

[原資料へ](#)

[2] The Museum of Modern Art

Henri Matisse: The Cut-Outs / The Cut-Outs

着色した紙を切り、ピン留めして配置を変える制作過程。

[原資料へ](#)

[3] The Museum of Modern Art

Henri Matisse: The Cut-Outs / The Swimming Pool

1952年の外出と、室内へ展開した切り紙作品の制作記録。

[原資料へ](#)

作品・写真・原資料の図版は本書に転載していません。作家の作品はリンク先でご覧ください。

構想・素材・スケッチの関係を読む

参照確認日：2026年10月3日。研究の対象や方法は、原資料で確認できます。

[4] Barbara Hepworth 公式サイト

Quotations from Barbara Hepworth's Writings

1946年の制作論、1952年刊の著述等。素材・空間と構想の関係を参照。

[原資料へ](#)

[5] Tversky, B., Suwa, M., et al. (2003)

Sketches for Design and Design of Sketches

Human Behaviour in Design, pp.79–86. スケッチの再解釈を扱う著者らの研究概説。

[原資料へ](#)

[6] Winner, E.

Valuing Thinking in the Arts

Creative Teaching & Learning, 8(4), pp.14–23. 美術教育と他領域への転移の論点。

[原資料へ](#)

作例・書式・職場への接続は当社の提案です。大学・美術館による本書の監修や推奨を示しません。

見るために描き、描いたものをまた見る

目の前の細部から、まだない可能性へ。



観察したこと。
思い描いたこと。
形にして気づいたこと。

この三つを、一枚に。
その違いから、
次のイメージが始まります。

前篇の実践ガイドを見る

2026年10月3日 発行 | リクエスト株式会社 組織行動科学®